

## 【DJ】とは

DJ（ディスク・ジョッキー）という名称には、様々な意味合いがある。元々はその名の通り、ディスク（レコード盤）を持ち運び、こんな曲がありますよ！ と「楽曲の紹介」をする人を指す言葉であり、ラジオのDJなどはこの系統の一つであると考えられる。

「レコード盤を持ってきて楽曲紹介をする人」をDJとするならば、DJはレコードが一般に普及する時代から存在するものと言って良いだろう。

そこからまた違う意味合いのDJとして、クラブDJ・ディスコDJなどが台頭してくる。60年代後半から、曲を途切れることなくつなぎ、その場の雰囲気を盛り上げ、お客さんに楽しんでもらうタイプのDJである。一般的にイメージされるDJとして大きな印象があるのではないだろうか。クラブDJは今現在、ダンスホールからパーティー会場、バーや喫茶店など、様々な場面でプレイしている。

時代の流れと共に、曲と曲をつなぐ（ミックスする）ための機材も登場し、今ではCDを用いるCDJも活躍している。さらにパソコンを使用するPCDJや、極端な例を挙げればスマートフォン一台でも曲のミックスが可能となっている。

基本的なミックスDJのスタイルとしては、

- ・ターンテーブル2台、もしくはDJ用のCDプレイヤー2台
- ・ミキサー（2つの楽曲を混ぜ合わせ、調整するもの。メーカーにより個性がある）
- ・レコード盤など音源となるもの

上記を使ってプレイするものである。二つの曲のテンポを同調させ、左のターンテーブルの曲から右ターンテーブルの曲へと綺麗に心地よくバトンタッチさせ、その後、右から左へ……と繰り返し展開させていき、その場の雰囲気を盛り上げたり、独自の世界観を構築し、聴衆に楽しんで頂く。テンポの同調や、いつどのタイミングでどう繋げるか、高音・中音・低音をどう調整するか、センスとテクニックが問われる。

選曲も重要であり、手持ちのレコードをどの順番で流すかを考えていく。……そういった意味では、好きな曲を好きな順番でCD-Rに焼いて、友達に聴かせたりすることも、広義においてDJと言えるのかも知れない。

ジャンルによってもDJは非常に細分化されており、テクノDJ、ハウスDJ、ファンキー、ヒップホップ、などなど。また様々なジャンルの曲を扱うフリースタイルDJなども注目を集めている。

上記までと異なった「バトルDJ」というものもある。スクラッチの音を変幻自在に操り、その技術の高さを競ったり、独特の音を楽しませるタイプのDJである。バトルDJの所作は正に楽器を演奏するかの様に目まぐるしい動きがあることから、「ターンテーブルリスト」と呼称されることもある。

比較的新しく生じた文化であるため、今後も変遷を重ねていき、【DJ】の意味あいも広がっていく可能性が大きい。